

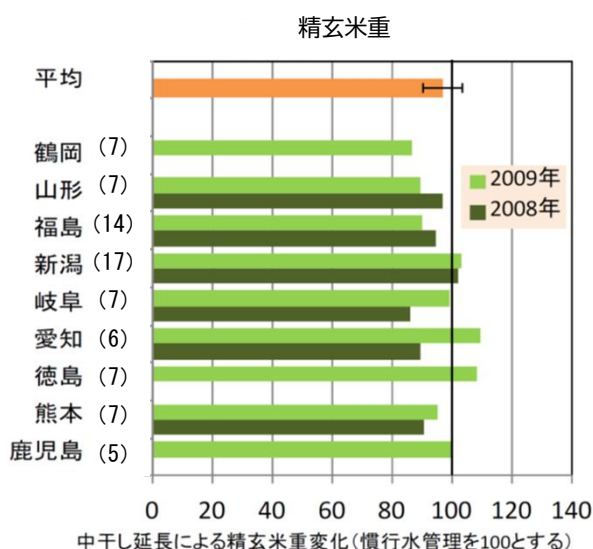
# 水田メタン排出削減（中干し期間の延長等）に取り組む際の留意点について

- J-クレジット制度の「水稻栽培における中干し期間の延長」や、多面的機能支払交付金の「長期中干し」は、水田から発生する温室効果ガスであるメタンの発生量を削減し、新たな収入が期待できる取組です。
- 一方で、中干しの強さ等によって米の収量や品質等に影響する場合がありますので、ほ場条件やリスクを踏まえて、取組の可否を慎重に判断してください。
- また、天候（高温・少雨）により、土壌が乾きすぎた場合や渇水が予想される場合は、リスクを回避するため、取組を中止するなど柔軟に対応してください。

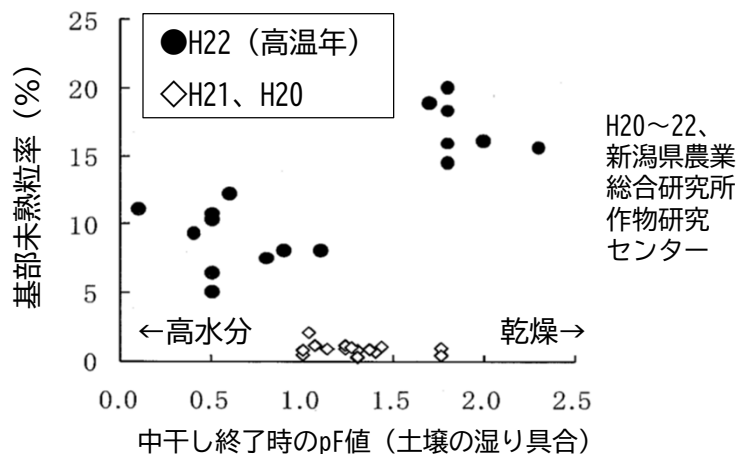
## 1 中干し期間の延長等による収量・品質の低下リスク

- 全国8県の栽培試験において、中干し期間を慣行の日数から1週間程度延長することにより、平均3%程度減収したと報告されています（図1）。中干しの過度な延長には収量減が伴いますので注意してください。
- 強い中干しにより、幼穂形成期以降の葉色が低下し、高温年に基部未熟粒が増加する場合があります（図2）。
- メタン発生の抑制と、収量・品質の確保を両立するためには、土壌に小ひびが入り、田面を踏んだ時にかかるとが少し沈む程度を中干しの終了めやすとしてください（図3）。

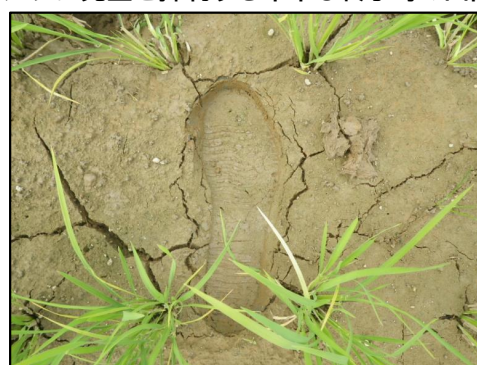
○8県9か所における水田メタン削減試験における中干し延長による収量の変化（図1）



○中干しの強さと基部未熟粒率の関係（図2）



○メタン発生を抑制する中干し終了時の田面めやす（図3）



新潟県農業総合研究所作物研究センター

※ 「水田メタン発生抑制のための新たな水管理技術マニュアル」(H24.8 (独) 農業環境技術研究所)

※ カッコ内は当該地域における慣行中干期間 (日間)

## 2 重金属吸収のリスク

- コメ中のカドミウム（Cd）含有量が食品衛生法の基準値（0.4mg/kg）を超えると、食用のコメとして販売できません。
- 土壤に含まれるCdは、土壤が乾く（酸化状態になる）と水に溶けやすくなり、農作物に吸収されやすくなります。
- 中干しが強すぎるとCdの吸収が促進され、コメ中Cd濃度が上昇するリスクがあります。

### 【湛水管理によるカドミウム吸収抑制対策の効果】

水管理方法	玄米中Cd濃度 (mg/kg)
湛水なし（出穂-21～+21日 間断灌水）	0.66
湛水管理（出穂-21～+21日 湛水）	0.18
【参考】食品衛生法の基準値	0.4以下

※「コメ中のカドミウム低減のための実施指針」（H30.1 農林水産省消費・安全局）  
※カドミウム濃度2.4mg/kgの灰色低地土を用いたポット栽培試験の結果

## 3 各制度における取組要件・留意点

対象活動		取組要件・留意点
J-クレジット	中干し期間の延長	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中干しの期間を直近2か年以上の実施日数の平均より7日間以上延長（肥料・農薬の低減や溝切りは不要）</li><li>・ 認定対象期間は8年間で、延長はない。</li></ul> <p>※中干し中に取水口を開けて差し水を行った場合、その時点で中干しは終了したとみなされる。</p> <p>【クレジットの販売価格：取引内容により変動】</p>
多面的機能支払交付金	長期中干し	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 化学肥料、化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と合わせて、水稻の生育中期に1本/10a以上の溝切りを実施した上で、14日以上の中干しを実施</li></ul> <p>※14日以上連続して中干しを行う必要があるが、ほ場が過度に乾燥する場合に生育障害を防ぐためにやむを得ず差し水を行った場合は、取組が続いているものとみなす（湛水は不可）。</p> <p>【支援単価：800円/10a】</p>